



2023年 冬号
No. 230



ぽぽハウスの未来を描く

理事長：若林 重一

新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は年始に「トヨタの問題解決」という本を読みました。その本の中で「トップダウン」という言葉に心を惹かれました。通常、「トップダウン」とは「上意下達」を指しますが、トヨタでは「トップの者が現場に行き、現場の状況を知り、社員と一緒に物事を実現しよう。」という意味で使っている事を知りました。私は、このような「言葉の解釈」に忘れてしまいがちな基本であるべき姿に改めて気づかされた思いがしました。

さて、特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウスが法人格を取得してから今年で 22 年目を迎えます。2022 年度の法人総会では、「法人事業の運営が大きな変革期に差し掛かっており、持続的に発展する法人の体制基盤や事業展開を構築する事」が承認されました。

これまで利用者やご家族の皆様の様々なニーズに応えるべく事業の多様化を図ってきましたが、社会情勢も鑑みながら、今、この時こそこれまでの事業を振り返り、未来に向けた事業がどうあるべきかを考えなければならないと思っています。

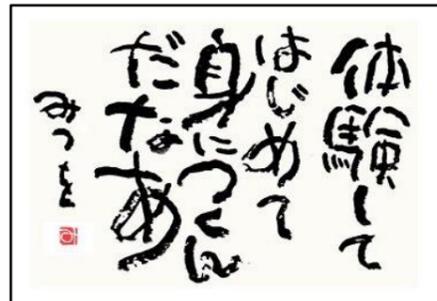
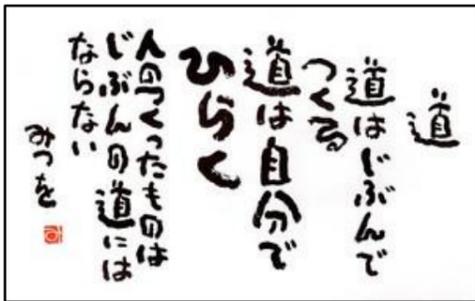
そこで、私たちは、利用者やご家族にしっかり寄り添う支援の中から法人の進むべき道を見つけるべく「未来を描く4つのアクションプラン」として

- ① 事業継続・発展(既存事業の見直しや組織改革)
- ② 人材確保・育成(人的将来構想や研修体制の強化)
- ③ 働く環境整備(給与や福利厚生の充実)
- ④ 共生の街づくりへのアプローチ(地域での居場所づくり、学び場づくり)



を職員一丸となり4年以内に達成する事を具体的に掲げることをしました。1つ1つをスピーディーに行動していき、職員もわくわくを感じ「変革」を体感できるような「アクションプラン」にしていきたいと思っています。

最後に、ぽぽハウスの未来に向け、相田みつをさんの詩をご紹介します。



掲載内容

- ・2面：未来ファンドおうみ助成事業特集「街かどアート滋賀大交差展」
- ・3面：未来ファンドおうみ助成事業特集「野菜作りから調理まで」
彦根ライオンズクラブ～焼き芋支援事業～
- ・4面：街かど掲示板 / 求人案内 / 寄付のお願い / 寄付のお礼

NPO 法人ぽぽハウス
Instagram Facebook



街かど掲示板

私たちは「安全基地」であることを宣言します。～芹川の河童～



お問い合わせ

〒522-0083
彦根市河原2丁目3-4
花しょうぶ通り商店街
第三の街の駅通信舎内
Tel : 080-4012-7738(法人直通)
Mail : nakamars.9035@gmail.com

当法人は、子ども・若者が安心して過ごせる居場所を運営する団体です。

引きこもりや生きづらさを抱える若者の居場所『誰にも会いたくないカフェ』、誰でも利用できる地域の居場所・コミュニティカフェ『地域循環型未来食堂「みんなの食堂」』、子どもの居場所『子ども第三の居場所「みんなの食堂」』などに取り組んでいます。またそれぞれの居場所を使って、令和4年7月から滋賀県ヤングケアラー支援モデル事業もスタートしました。

「一人ひとりの存在を認め、寄り添うことで、地域を愛する人を育み、法人自らも成長し、幸せな地域を創る」ことを経営理念に、地域、学校、企業、家庭の真ん中にある地域の「安全基地」でありたいと思っています。

共に支えあう社会を目指し『だれもが幸せと思える』活動に取り組んでいきたいと考えています。

(特定非営利活動法人 芹川の河童 代表：川崎 敦子)

求人案内

【正職員】

◎指導員
勤務地：平田・大藪・芹川

【パート】シフト制

◎機能訓練指導員
勤務地：平田
◎児童指導員
勤務地：平田・大藪・芹川

※詳しくは
ハローワークの
求人票を
ご覧下さい。

寄付のお願い

“ぽぽハウス”は、認定 NPO 法人のため寄付金に対する税制上の優遇措置が受けられる団体となっております。ぜひ、私たちの活動にご協力ください。

- ◎ 振込先 ゆうちょ銀行
- ◎ 口座名義 特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス
- ◎ 口座記号 00980-4
- ◎ 口座番号 130131

寄付を頂きました。心より感謝申し上げます(敬称略)

イチバンコーポレーション、税理士法人 明正マネジメント、(有)北村防災、(株)スマイル&マインド、(株)イズミ、(株)エムランド 東びわこ農業協同組合彦根中央支店、(株)ミールサービスたにぐち、(有)南エンジニアリング 代表取締役 南繁安 (有)A.SITE 代表取締役 平居晋 市之瀬紀子、馬淵玲奈、菅沼寿美恵、黒田雅夫、居川幸子、大山純子、清水悦子、石澤英明、岡井武夫、北川ひとみ、山田真由子、北川淳子、阿部圭宏、井口淳子、桐畑遥、桐畑幸代、他匿名10名

認定特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス

住所：〒522-0041 彦根市平田町 107-11 (法人事務局)
TEL : (0749)27-9777 mail : popohouse@nifty.com
FAX : (0749)27-9888 HP : http://www.popo-house.jp

ぽぽ相談室 (要医療児者支援体制配置)
・特定相談支援・委託相談 (行動障害支援体制配置)
・障害児相談支援 (精神障害者支援体制配置)

きらめき(障害児通所施設)
・児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援

ぽぽハウス(障害児通所施設)
・児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援
個別支援室
・行動援護・移動支援

居宅介護支援室

・ケアマネジメント

ぽぽハウス(高齢者通所施設)

・地域密着型通所介護・介護予防通所介護
・ほのぼの(通所型サービスA)

はばたき(障害児通所施設)

・児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援

子ども子育て支援室

・すくすく教室(彦根市受託事業)

地域協働室

・市民共生活動・子育てアドバイス相談コーディネート
・あったかルーム(宅老)

車両室

彦根市地域子育て支援センター「まんまるひろば」
(ビバシティ彦根2階)

しが介護職員定着等推進事業者



～財源である職員を大切にしています～

街かどアート滋賀大交差展

未来ファンドおうみ【笑顔あふれるコープしが基金】の助成を受け、11月21日（月）～12月16日（金）『街かどアート滋賀大交差展』を開催しました。係わって下さった方々のお声をご紹介します。

先生からのメッセージ

この度は、みなさんの街かどアート展を、本学彦根キャンパスで開催していただきましたこと、誠にありがとうございました。

経済学部・データサイエンス学部のある彦根キャンパスでは、日常、アートや福祉に直接関わることがありません。

展示会で、無機質な白い教室の壁に絵画や陶芸が飾られた時には、校舎全体が華やぎ、学生や職員が足をとめ作品に見入る姿があちこちで見られました。

ある先生は作品の鑑賞を学生のゼミ学習につなげたり、私も仕事で一息つきたい時にアートで元気をもらっていました。叶うなら常設展示をお願いしたいと思ったりです。

今回の街かどアート展実行委員の皆さんのご協力に心から感謝し、この取り組みがますます充実しますよう、お祈り申し上げます。（滋賀大学 地域連携教育推進室 柴田 雅美）

学生からのメッセージ

障害者の方々のアートは色使いや描き方がとても生き生きとしていて、大学の真っ白な壁を一気に華やかにしていました。

アート展と付随するワークショップについて、普段関わることのない支援団体の方々と、何度も話し合ったことはとても良い経験でした。企画に関わることができて光栄です。

（滋賀大学 経済学部2回生 豊田 優希）

ワークショップ

滋賀大学の「サステナウィーク」に街かどアート展を組み込んでいただきました。

作品展示と共に、学生さんにもアートに触れていただけるよう、パッチワーク風の絵画を作成する事になりました。いろんな方が思いのままに画用紙に色を乗せ、繋ぎ合わせると一枚の絵になるというギミック※を考え出し、会期中におよそ200枚の絵が集まり、縦1.8m×横5.4mの大作が完成しました。

今後も機会があれば“成長する絵”として展示してゆければと思っています。（特定非営利活動法人 シード 野路井 邦充）

※ギミック…ちょっとした仕掛け

ご家族からのメッセージ

街かどアート展実行委員会のスタッフの皆様、滋賀大学の皆様のおかげで、春花の絵をたくさんの方に見て頂くことができ感謝しております。展示された絵を皆さんが熱心に見てくださったことに感動しました。この展示会が障がいのある方への理解のきっかけになれば嬉しいです。（岡本 あかね）

笑顔あふれるコープしが基金

この基金は、地域の高齢者の居場所づくりや見守り活動、子育てや食育など、身近な問題への取り組みによって、私たちのよりよい暮らしにつながる活動に助成されます。



学生からのメッセージ

私は街かどアート展の企画や準備に参加しました。

障がい者と滋賀大学の学生がアートを通じて交流することを目標に話し合いを進めました。

実際に多くの学生がアートを通して、共生社会について考えるきっかけになったと思います。

私自身も「アートが持つ力」を実感し、このプロジェクトに携わったことで多くの学びを得ることができたと思います。

（滋賀大学 経済学部3回生 福間 咲和）



大学のキャンパスをアートで飾る。アートと学生が交差する。初めての試みでしたが、先生・学生・実行委員会が一つとなり、すばらしい展覧会となりました。これまでの展覧会でも、作者のみならず、観た人からも「ありがとう」「元気になった」「明るい気持ちになれた」というお言葉をたくさん頂いてきました。アートを一つのきっかけとして、お互いが幸せな気持ちになり、“作者と観る人をつなぐ”架け橋となれるよう、これからも活動していきます。（街かどアート展実行委員会 上田）

野菜作りから調理まで【交流会】

未来ファンドおうみ【げんさん食育 NPO 基金】の助成金事業として、11月23日（水）に『甲良養護学校卒業生・在校生はばたき交流会！』を開催しました。



植ええ



収穫

高齢者デイサービスの利用者の方々から、野菜の切り方や豚汁の作り方を教わりそれを元に、自分たちで手順書を作り、調理をしました。



作り方を教わる



手順書を作る



調理する



交流会

交流会では、最初みんな緊張していたり、恥ずかしがったりしていましたが、はばたきの児童たちが作った豚汁を食べ、同じ時間を過ごす中で、楽しそうにお話をする姿がありました。自分たちで「育てる」からみんなで「食べる」・「交流する」とても貴重な経験となりました。（はばたき 大澤）

げんさん食育 NPO 基金

この基金は、障がいのある子どもたちが健やかに成長していくことを、食育などを通じて地域とともに応援していく活動に助成されます。

「体感」・「視覚」

「味覚」・「語り」で育てる「やさいづくり」をコンセプトに1年間、児童たちが種から育て、収穫を行いました。野菜の種類によっては、苗になるまでプラントポットで育てたものもあります。



彦根ライオンズクラブ ～焼き芋支援事業～

彦根ライオンズクラブ様は、環境保全活動、また利用者様の社会体験の一環として、「焼き芋支援事業」を行っています。

11月5日（土）、彦根ライオンズクラブ様よりご招待いただき、高取山（多賀町）に行ってきました。

まず、ほうきやちりとり、一輪車等を使って、みんなで一生懸命落ち葉を集め、清掃活動を頑張りました。

その後、用意して頂いた焼き芋やフランクフルトをいただき、お腹いっぱいになった児童の笑顔がたくさん見られました。

新型コロナウイルス禍により、今年は3年ぶりの焼き芋支援事業となり、自然の中でのびのびと過ごす児童たちの姿を見ることができ、改めて、共生社会づくりの大切さを感じることができました。このような場を設けていただき、ありがとうございました。

（はばたき 大澤）

